福井県・若狭美浜

若狭美浜はあとふる体験
「生きぬく強い心を」

若狭路はあとふる体験では、「探究学習」「SDGs」を踏まえ、日本でも最大級の多さを誇る漁家民宿で、漁村の生活を軸とした漁師とその家族、村張り文化などを「探究学習」の素材として開発を進めています。また、若狭路はあとふる体験の活動自体が、包括的で持続性な経済活動、社会の雇用創出につながり、自然・文化体験から資源の効率化、環境問題の取り組み、文化的価値の向上と社会貢献を目指しています。

若狭路はあとふる体験の特徴としては、宿泊プログラムとして、200人クラスの学校が受け入れられる「旅館タイプ」、漁村生活体験が可能の約75軒登録（最大450人）の「漁家民宿タイプ」、幸福度日本ナンバー1の家庭を体験でき、登録件数111軒（最大300人）の「ホームステイタイプ」の3タイプをご用意しています。

体験プログラムについては、自然豊かな地域の資源を生かし、漁業体験、農林業体験、自然・アウトドア体験、伝統味覚体験、工芸・歴史文化体験など約50種類のバリエーションに富んだ体験プログラムを整えています。

体験プログラムでは、漁師や農業者など生業で仕事を営む方々がインストラクターとして対応し、農林漁業の生き様や仕事の楽しさ、業界の課題などを伝えています。宿泊プログラムと体験プログラムを選択していただき、お客さまの希望に沿って体験できる内容となっています。地域のインストラクターと共に汗を流し、本物の現場を体験することによって、生きる強さと自分の考えを持ち、自発的に行動できる人間へとつなげていける体験プログラムとなってます。

チームワークを育むボート体験

人とのつながりの大切さを学ぶホームステイ

漁村文化を肌で体感

◆ボート体験（信頼関係と、物事を継承して活動できる心づくり）

はあとふる体験特有のプログラムがこのボート体験。チームワークの大切さを肌で感じ、人間関係を構築する能力を育むことができる人気のプログラム。こぎ手4人とコックス（かじ取り）1人が艇に乗り込み湖をこぎ進みます。「一艇ありて一人なし」という言葉のように、一人が頑張っても早く進まず、全員の呼吸が一つになった時、初めて湖面を滑るように進むことができます。

◆漁村体験・漁家民宿（日本の漁村生活や伝統を知る）

日本でも最大級の民宿の数を誇る若狭湾、現在も村張りの文化が残り、地域住民みんなで村を守っています。お父さんは漁師でお母さんが民宿を営む家族模様や、しきたりや、村の祭りなど今でも残る文化など漁家民宿で、特有の漁村文化を肌で感じて下さい。

◆ホームステイ体験（心の温かさと人としての礼儀の心づくり）

人間関係の気薄さが問題となっている中、民泊体験を通じて、人の温かさ、自分を応援してくれる気持ちを肌で感じる機会を大切にしています。自分の存在価値を再確認し、自分も高まりたいという意思、意欲を伸ばしていけるよう「心の平和教育プログラム」として「田舎の温かさ人とのつながりの大切さ」を伝えています。偶然結ばれた数日間の縁がそれきりにならず、絆がつながっていくところに美浜の民泊体験の魅力があります。

■　■

自然の豊かさを大切に質の高い教育・住み続けられる町づくりを目指し、将来の世代にも配慮しつつ、全ての人が笑顔で元気に住み続けられる街づくりを目指します。

一般社団法人 COLORsプラス
（若狭路はあとふる体験）
〒919-1131 福井県三方郡美浜町木野21-4-1
〈㈱旅工房内〉
TEL 0770-32-2222　FAX 0770-32-6667
URL https://tabikobo-jpn.com/
E-mail:tabikobo-all@joy.ocn.ne.jp

奈良県・大和飛鳥地域

民家ステイとSDGs学習
人と出会い、つながる

飛鳥は1400年以上も前から、先進的な取り組みがなされた場所です。海外から最先端の技術や文化を受け入れて、日本の国づくりが始まった場所であり、当時から女性天皇が立つなど、女性が活躍できる場所でもありました。

大和飛鳥ニューツーリズムは、2011年から、民家ステイの受け入れや各種体験プログラム・人材育成事業に取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、一昨年秋に『民家ステイ』受け入れを再開し、直接的な触れ合いができる学びの場を守り続けてきました。「厳しい状況の中でも、当地を選び、お越しくださる学校さまがいらっしゃる限り、受け入れたい」と言ってくださるホストファミリーのおかげで、私たちは当事業を継続することができています。地域のみなさま、自治体のみなさまに支えられ、この事業が成り立っていることがコロナ禍により、より鮮明になりました。一昨年実施した受け入れの際「すべての人に感謝したい」と言ってくれた生徒代表の言葉にも、たくさんの勇気をいただきました。ぜひ、『大和・飛鳥民家ステイ』を体験していただき、今を生きる子どもたちに、さまざまなつながりの中にある、希望や優しさを感じていただきたいと願っています。

農作業体験も（ごぼう掘り）

海外からの受け入れも再開

①民家ステイとSDGsのつながり～キーワードはサステナビリティ

飛鳥地域で当事業が始まったきっかけは、地域を活性化させ「住み続けられる村」にするためでした。限界集落問題からくるコミュニティ維持の必要性、耕作放棄地増加による農業衰退、森林荒廃による災害発生リスク増大、地域産業の構造的衰退を原因とする所得水準の低下。これらの課題はSDGs17の目標と169のターゲットから解決できます。一人一人が、「世界を構成する一員であることを自覚して、行動を起こす」というSDGsの精神は、「自ら考えて行動すること」が求められる民家ステイの理念にも重なります。また、田舎暮らしの知恵の中には、SDGsの取り組みと直結することがたくさんあります。さらに「民家ステイを利用すること＝当地の『住み続けられるまちづくり』支援」につながることから、SDGsに真剣に取り組まれる学校さまにこそ、自信をもって『民家ステイ』を取り入れていただきたいと思います。

日本の歴史を体感

②飛鳥地域とSDGsのつながり～より詳しく地域を知る対話型ツアー「里ぶら・歴史ウォーク」

地元在住の「里ぶらファミリー」と一緒に飛鳥地域を旅しながら、日本はじまりの地「飛鳥」の深い歴史、豊かな自然、そして人とのつながりを体感しながら、気づき・理解を深めることがコンセプトです。地元の人だからこそ知っているコト・モノ・場所を知り、古都保存法や明日香法によって村内全域に規制がかかる様子を目で直に見て、互いに話し合うことで、昔から今に続く「まちづくり」について知り、自分たちの地域の未来を考えることにもつなげられるように導いていきます。宿泊を伴う民家ステイができない学校さまにお薦めいたします。

◇　◇

「どのような状況下であっても、人と人はつながり、学び合い、高め合える」、そう、子どもたちに感じてほしい。「大和飛鳥地域での学びの場を守りたい」という理念に賛同してくださる地域の自治体、事業所、ホストファミリーのご支援ご協力のおかげで、2021年秋から民家ステイ、および体験プログラムの受け入れを再開することができました。大和飛鳥地域で、今後もよりよい出会いとつながりを持つお手伝いをしていきたいと思っています。

一般社団法人 大和飛鳥ニューツーリズム
〒634-0112 奈良県高市郡明日香村島庄5番地
TEL 0744-54-1525　FAX 0744-54-1526
E-mail:info@yamatoasuka.or.jp
URL:https://yamatoasuka.or.jp/

新しい教育旅行の時代を

広島湾ベイエリア・大崎上島

自然と歴史
人情を感じる感動の島

広島県大崎上島町は、瀬戸内海のほぼ中央に位置する面積43・29平方㌔、人口約6997人の離島です。本土とは、竹原、安芸津港とフェリーで海上約30分で結ばれており、その他、大崎下島、大三島、今治市との航路もあります。離島ではあるものの、山陽自動車道、広島空港などにより主要都市とは短時間で結ばれています。瀬戸内海特有の温暖な気候と風光明媚な景観の中、島という限られた土地に生き、造船業・海運業、ミカン、レモン、デコポンなど多種類の柑橘（かんきつ）栽培をはじめとする農業、水産業など、先人たちのたゆまぬ努力によって発展してきました。

2011年から体験型修学旅行の受け入れに向けてスタートし、島の特性、文化を生かしたさまざまなプログラムを用意しています。中でも1番のおすすめプログラムは、200年以上の伝統の伝達手法は早馬でしたが、櫂（かい）伝馬（でんま）体験」です。昔は陸馬は海での情報伝令の役目を担った木造船で、14人の漕ぎ手と太鼓1人、船頭1人の16人が乗り込みます（体験人数112人）。それぞれのポジションで役割を担い、独特の掛け声と太鼓で調子を合わせ、心を一つにして櫂の動きを合わせなければならず、チームワークの育成に比類のない、学校教育には極めて有効なプログラムです。また、瀬戸内の穏やかな海を渡り、甘藻場で海の生命について学ぶシーカヤックの人情を感じていただき、島の人々の生き方や命の源の食生産を担う農山漁村の役割を考え、理解する機会となります。これら「まるごと島体験」が、自らの生活や家庭、生き方を省みる機会となり、生きる力と豊かな心を育む契機になればと考えています。

チームビルディングに最適な櫂伝馬体験

農業や食を学ぶ農業体験

フェリーに乗ってお別れ

瀬戸内海で船釣り体験

シーカヤック体験

皆さまに安心して来島いただけるよう新型コロナウイルス感染症防止安全対策やその他、安全、衛生、防火など各種講習会を行い、万全の体制で皆さまをお迎え致しますので、ぜひ大崎上島にお越しください。

■SDGs取り組みプログラム

「主体的・対話的で深い学び」に加え、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標であるSDGsに取り組むためのプログラムも用意しています。

●上記櫂伝馬のほか売りのプログラム

①シーカヤック（体験人数120人）

瀬戸内海の無人島周辺を航海します。また、プランクトンや稚魚がすむ「魚のゆりかご」と呼ばれる瀬戸内海でも有数の甘藻場を観察し、環境学習をします。

②農作業体験（体験人数100人）

瀬戸内海特有の温暖な気候で育った柑橘類やブルーベリー、トマト、イチゴなどの栽培過程から農業の厳しさを学び、食について学習します。

■民泊体験

120人の受け入れが可能です。島の人々と生活を共にすることにより、豊かな自然と島独特の人情を感じていただき、島の人々の生き方や命の源の食生産を担う農山漁村の役割を考え、理解する機会となります。これら「まるごと島体験」が、自らの生活や家庭、生き方を省みる機会となり、生きる力と豊かな心を育む契機になればと考えています。

皆さまに安心して来島いただけるよう新型コロナウイルス感染症防止安全対策やその他、安全、衛生、防火など各種講習会を行い、万全の体制で皆さまをお迎え致しますので、ぜひ大崎上島にお越しください。

■SDGs取り組みプログラム

「主体的・対話的で深い学び」に加え、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標であるSDGsに取り組むためのプログラムも用意しています。

●上記櫂伝馬のほか売りのプログラム

①シーカヤック（体験人数120人）

瀬戸内海の無人島周辺を航海します。また、プランクトンや稚魚がすむ「魚のゆりかご」と呼ばれる瀬戸内海でも有数の甘藻場を観察し、環境学習をします。

②農作業体験（体験人数100人）

瀬戸内海特有の温暖な気候で育った柑橘類やブルーベリー、トマト、イチゴなどの栽培過程から農業の厳しさを学び、食について学習します。

広島湾ベイエリア・海生都市圏研究協議会
（広島商工会議所　産業・地域振興部　地域振興課内）
担当（田村・田井）
営業時間　月～金曜日　9：00～18：00（祝日は除く）
〒730-8510 広島市中区基町5-44
TEL 082-555-8081　FAX 082-222-6622
E-mail:bayarea@hiroshimacci.or.jp
URL https://www.hiroshima-bayarea.net/

広島湾ベイエリア・周防大島

海・山・心　つながる絆
感動☆島体験

山口県東南部に位置し、淡路島、小豆島に次ぐ瀬戸内海で3番目に大きな島。温暖な気候と美しい自然に恵まれた人情あふれる島で、南国ムード漂う癒やしの島は「瀬戸内のハワイ」と呼ばれています。主な産業は農業・漁業・観光で、農業ではミカン栽培、漁業ではタイやイワシなどの沿岸漁業が盛んです。海や山の自然を生かした豊富な体験プログラムが魅力で、世界遺産の原爆ドームや宮島とのアクセスも良好です。

美しい海でカヌー体験

■民泊体験（ホームステイ）

島の家庭にホームステイし人情あふれる田舎暮らしを体験！　自然の恵みに触れ、生産の喜びを知り、未知のことに挑む精神力を培い、子どもたちの「生きる力」を育みます。

周防大島町には農業と漁業を営む半農半漁の家庭が多く、豊かな自然と共に生きる島ならではの暮らしがあります。魚を釣ってさばき、畑の野菜をお裾分けし、青い海に飛び込む。島の暮らしを体験することで、私たちが自然や生命の恵みを受け、さまざまな人との関わりの中で生きていることを実感し、これらを未来につなぐことの大切さを学ぶことができます。

民泊体験では子どもたちを家族の一員として迎え、交流の中で生まれる「心と心のふれあい」を大切にしています。島の家族と一緒に自ら農漁業や食事作りに取り組み、人の優しさ・温かさに触れることで、身の周りの人の大切さを考えるきっかけになればと思います。

民泊中の共同調理

民泊家庭とのお別れ

■選択別体験プログラム

周防大島町ではさまざまな体験プログラムを提供しており、なかでもカヌー体験や地引網漁といった海の体験が人気です。

①カヌー体験　波や風を浴びながら1㌔沖合の無人島への航海にチャレンジ！　2人乗りのカヌーではバディ（相棒）と息を合わせることがポイント。目標到達を目指し、あきらめない心と協調性を養います。

②地引網漁体験　2グループに分かれ、魚が逃げないように息を合わせて網を引きます。生きた魚に触れて命のつながりを学ぶとともに、チームワークを育みます。

■探求型学習SDGsプログラム

SDGsをテーマにさまざまな社会問題を実践的に学び、自ら調査・考察しながら解決策を導き出す探求型プログラム。

①海ごみゼロプロジェクト　海洋ごみの実態とその影響を調査。作る側・使う側の責任を知り、豊かな海を守る手段を考えます。また、清掃活動を通じて社会に貢献する意識を育みます。

②ミツバチが担う役割を知り環境保護の大切さを学ぶ　島の養蜂家からミツバチ減少の実態を学び、その原因を探求します。気候変動や食糧問題といった地球規模の問題に対し、自分たちに何ができるのか主体的に考えます。

■安心・安全で質の高い受け入れ

周防大島町での体験を通じ、未来を担う子どもたちの心を育むお手伝いができればと考えています。皆さまに安心してご来島いただけるよう、安全対策、食品衛生などの研修会を実施し万全の体制でお待ちしています。ぜひ周防大島町へお越しください。

地引網漁体験

広島湾ベイエリア・海生都市圏研究協議会
（広島商工会議所　産業・地域振興部　地域振興課内）
担当（田村・田井）
営業時間　月～金曜日　9：00～18：00（祝日は除く）
〒730-8510 広島市中区基町5-44
TEL 082-555-8081　FAX 082-222-6622
E-mail:bayarea@hiroshimacci.or.jp
URL https://www.hiroshima-bayarea.net/